

日時：令和4年12月15日（木）10:00～12:00

場所：富山県庁3階特別室、オンライン

1. 事務局説明

関連する他のPTの協議内容として、まちづくり戦略PT、ブランディング戦略PT、スタートアップ支援戦略PTにおける検討状況の報告が行われたほか、富山県カーボンニュートラル戦略の策定状況に関して報告。

その後、①令和4年度成長戦略アクションプランの推進・検証について、②令和5年度成長戦略アクションプラン及び重点的な取組みについて、資料に基づき事務局から説明。

2. 委員の主な意見

（カーボンニュートラル戦略について）

- 国よりも高い削減目標を掲げることは前向きでよいことだと思うが、従来のやられる省エネではなく、一人一人の省エネの活動意欲を盛り上げていくような、アクティビティを加えるとよいのではないかと。
- 省エネやカーボンニュートラルを行わなかった人から頑張った人にお金が動くといったインセンティブにより、稼ぎの原点となるカーボンニュートラルを目指せるような建付けとしていただければと思う。

（令和4年度のアクションプランの検証、令和5年度の取組方針について）

- 外国人が多くいる地域でなくても、インターナショナルスクールがあることで、その地域でリモートワークなどの形で仕事をする人や、新しい拠点を作りたいという外資系企業も存在している。将来的な外需の取り込み、人口増や多様性が増すことにもつながるのではないかと。
- 主体的、探究的な学びを進めるときに、様々な事業が教員主体ではなく、やらされ感が強い。教員が主体でなければ子供たちが主体になれないので、教員が面白い、楽しいと思え、人優先、学校優先、先生優先で取り組めることが子供たちの学びの主体性にもつながるのではないかと。
- 探究的な学びを進めるときに、地域、企業、市町村、保護者等と関係をつくりながら進めることが多いが、教員は目の前のことでいっぱい、外部との連携が難しい。学校と連携先等をつなぐ外部人材の育成・配置などにも配慮いただきたい。
- DXやスタートアップ教育に関しては、シリコンバレーが中心地であり、それらに関する既存のカリキュラムも存在しているので、活用していくとよいのではないかと。
- IoTコンソーシアムについて、事務局や組織に関すること、富山県新世紀産業

機構や県立大学のDX教育研究センターとの棲み分けなどの構造的な課題も見えてきていると思う。もう一度、そもそも何のためにやっていて、今の姿が本当によいのかなど、抜本的に見直すことを考えるタイミングではないか。

- KPIの設定の考え方が重要だと一貫して意見してきている。最上段に掲げられるKGIに各部門のKPIがぶら下がり、部門KPIを達成するためのキーサクセスファクターを設定して、キーサクセスファクターを達成するための行動KPIを設定することが重要。
- ウェルビーイングの要素を分解し、達成していくための最低基準を考えれば、数値目標も伴ってくる。キーサクセスファクター等を決定する優先順位や重要性について、何にフォーカスをあてて議論したのかという意思決定のプロセスもわかるようになるのではないか。
- DXに関する指標や取組を増やしているが、DXは手段であり、地域競争力や企業競争力、県民の幸せ等につながっているのかをしっかりと見て、投入したヒト・モノ・カネに値する政策かどうかをしっかりと見ておく必要がある。
- DXに関する実感として、二極化してきていて、進んでいるところと全くやってないところはかなり分かれ、中間が存在しない。はじめの一步に関することを用意しているが、人手不足も絡んでそれどころじゃないという話もあり、まずいなと思っている。日本全国の問題だと思うが、カーボンニュートラルの話も全て転んでしまうことになりかねない。
- 薬業界では、新薬開発のみならず、予防医薬、診断、疾病等の開発は大学を含めて今研究されているところであり、将来は企業にも結びつけばよいと思っている。医薬品のみではなく機能食品関係でも、将来そのような機会があればお願いしたい。
- 品質問題は、従来、製造管理・品質管理が中心だったが、製剤設計時にどんな問題があるかリサーチすることが大事だということで、富山大学を中心に、民間企業とともに、QBD（製剤設計のための品質の作り込み）という新しい分野のテーマへの研究体制が発足している。品質問題と、大学との連携並びに今後発生する新薬以外で自分たちの手の届く分野を模索したい。
- 薬業会と大学との連携には、まだ距離があるように感じており、そこを近づけることが当面の課題だと思っている。
- アルミ産業の成長について、個社では成し遂げられない、カーボンニュートラルなサプライチェーンといった、これからの社会で要求されるものを追いかけるグラウンドの整備はできたのではないかと感じており、これから結果を出していかなければならない。富山大学ととやまアルミコンソーシアムを中心にしっかりと取り組んでほしいと思っている。
- 廃プラスチックに関する法律もできて、世界中で廃プラスチック問題は旬な議題の一つになっており、プラスチックも履歴をトレーサブルにすることが非常に重要になってくる。デジタルでアルミのトレーサブルな状況をつくっていくことと

必要なバックグラウンドは共通点があり、政策を連動していけばよいのではないか。

(その他)

- 1年間の議論等を踏まえて、以前新産業ワーキンググループとして取りまとめた最終報告書のアップデートが必要なのではないか。議論の進捗や対応状況、世界情勢を踏まえた実施すべき施策などについて書き直せるとよいだろう。